

第二 高齢者の現状と今後の見込み

1 人口の推移と推計

涌谷町の人口の推移を見ると、平成17年3月31日現在の住民基本台帳人口は18,843人で平成12年国勢調査結果に比較して4,70人(2.4%)減少しています。昭和60年をピークに減少傾向が続いていることがわかります。

65歳以上の高齢者人口については、平成17年が4,748人で平成12年に比べて2,80人(6.3%)増となっています。平成7年から見て26.4%、平成2年から見ても57.3%の増となっており、高齢者人口の増加傾向が著しい状況にあります。

75歳以上の後期高齢者人口についても平成12年から比べて28.3%、平成7年から見て63.0%、平成2年からは89.2%の増となっており、高齢化が一層進行していることがあきらかとなっており、今後は後期高齢者の増加が予測されます。

これに対して14歳以下の年少人口の減少が特徴的で、少子化傾向が著しい状況です。

平成17年時点では2,274人となっており、平成12年国勢調査と比較して14.2%減少しており、平成7年からの10年間で33.2%減となっています。年少人口は、昭和60年をピークに減少し続けています。

こうした国勢調査結果から推移を見てみますと、全体として人口の減少傾向が続いており、とりわけ、少子・高齢化傾向が年々著しくなっています。

表1-1 人口推移

単位：人

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	
総人口	21,362	20,871	20,170	19,313	18,843	
0～14歳人口	4,728	4,229	3,402	2,651	2,274	
15～64歳人口	14,101	13,619	13,012	12,194	11,821	
65歳以上人口	2,529	3,019	3,756	4,468	4,748	
内訳	65歳～74歳	1,587	1,831	2,377	2,716	2,500
	75歳以上	942	1,188	1,379	1,752	2,248

平成12年までは国勢調査、平成17年は3月31日現在の住民基本台帳数値

高齢化については、国と宮城県はほぼ同じ割合で推移していますが、涌谷町の高齢化率は依然高い割合を示しています。

表1-2 高齢化の推移

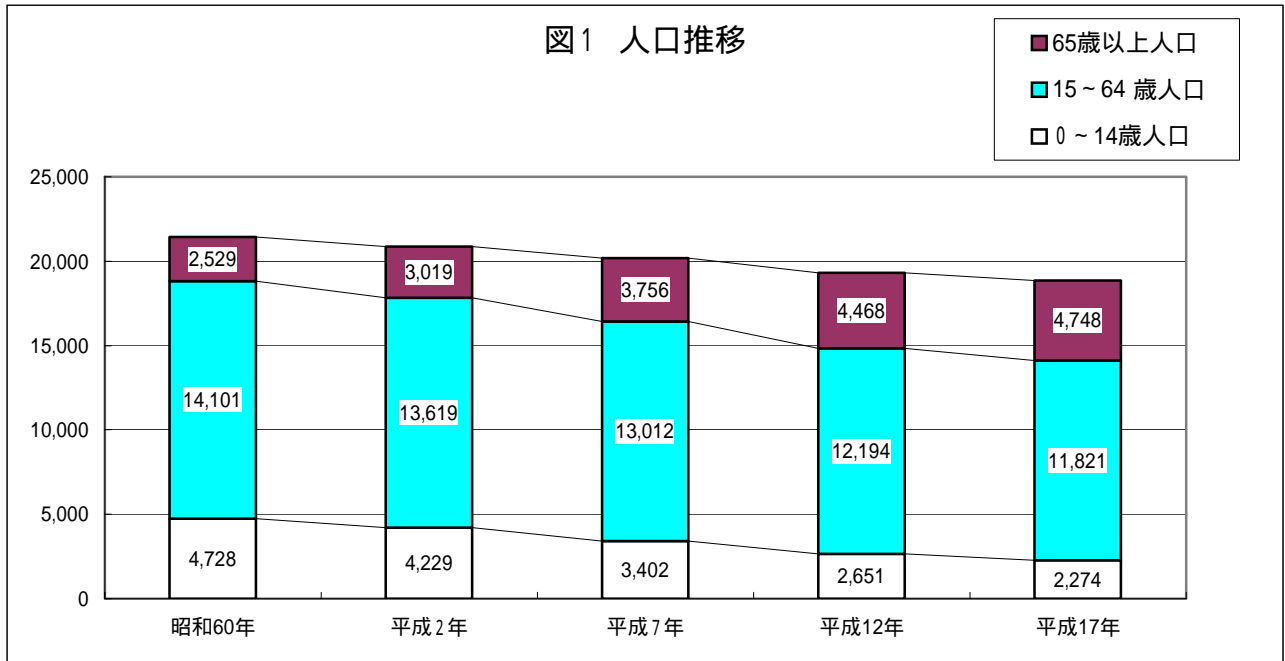
(国勢調査)

単位：%

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
国	10.3	10.9	14.5	17.3	19.5
宮城県	9.9	11.7	14.5	17.3	19.7
涌谷町	11.8	13.9	18.6	23.1	25.2

国は前年10月1日現在の高齢社会白書数値。

宮城県及び涌谷町の平成17年は3月31日現在の住民基本台帳数値



人口動態では、転出数が転入数を上回っている社会変動による人口減少と死亡数が出生数を上回っている自然減少により、今後ますます人口減少が続くと予測されます。

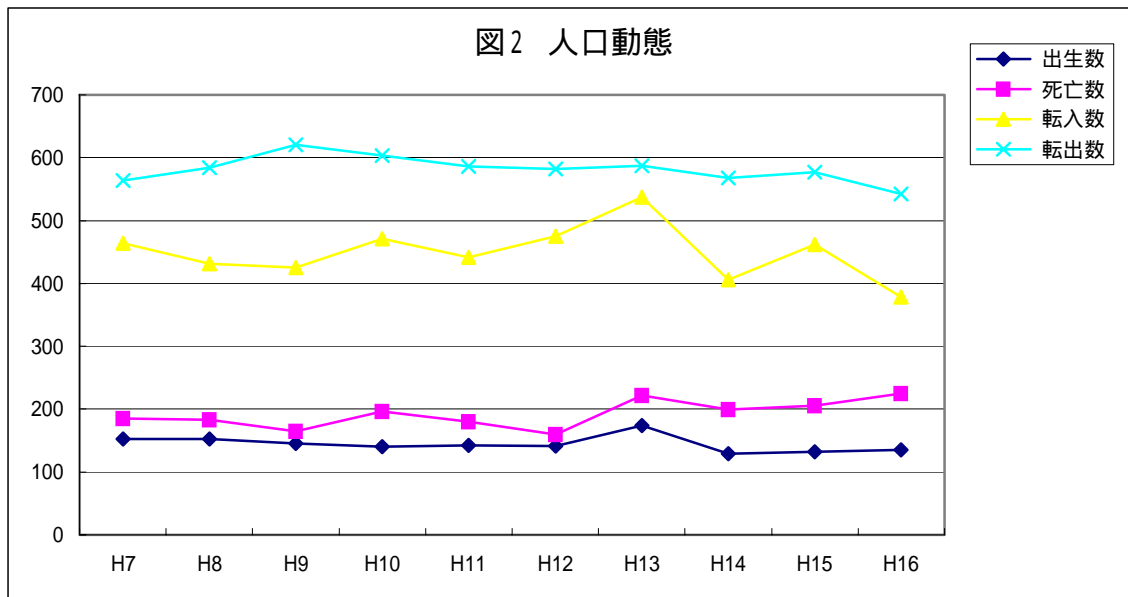
表1 - 3 人口動態

単位：人

	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度
総人口	8.3.31現在 20,466	9.3.31現在 20,292	10.3.31現在 20,079	11.3.31現在 19,902	12.3.31現在 19,739
前年比	-129	-174	-213	-177	-163
出生数	153	153	145	140	142
死亡数	185	183	165	196	180
転入数	464	431	425	471	442
転出数	564	584	621	603	586

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
総人口	13.3.31現在 19,617	14.3.31現在 19,526	15.3.31現在 19,296	16.3.31現在 19,096	17.3.31現在 18,843
前年比	-122	-91	-230	-200	-253
出生数	141	174	129	132	135
死亡数	160	222	199	206	225
転入数	475	537	406	462	378
転出数	582	587	568	577	542

(涌谷町住民基本台帳数値)



高齢者人口の推計

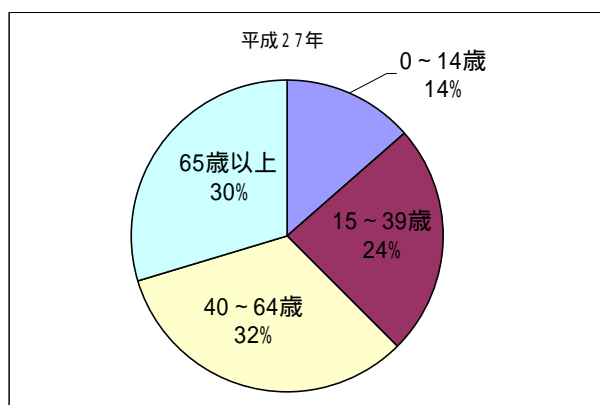
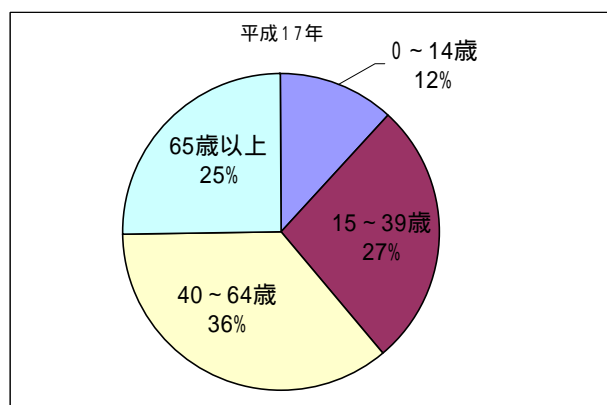
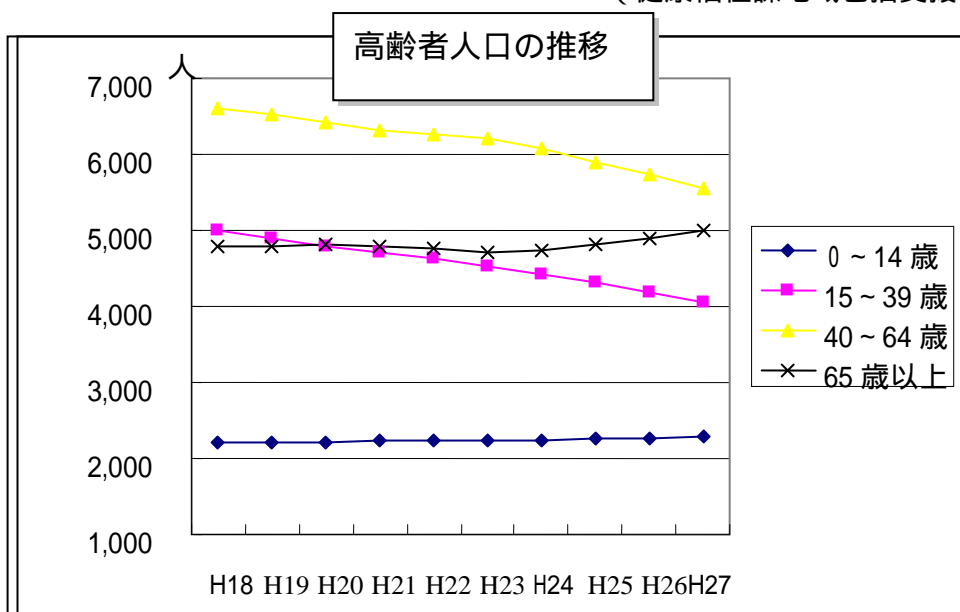
涌谷町の総人口は、今後も減少を続け10年後の平成27年には1万7千人を下回る見込みです。65歳以上の高齢者人口は、平成20年まで増加し、平成21年には一時的に減少しますが、平成24年以降は再び増加に転じます。高齢化率は毎年上昇し、10年後の平成27年には29.6%となり、およそ3人にひとりが高齢者という状況になるものと予想されます。

単位：人

	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年
総人口	18,602	18,414	18,233	18,051	17,866
0～14歳	2,220	2,198	2,218	2,227	2,227
15～39歳	5,001	4,906	4,784	4,710	4,622
40～64歳	6,597	6,514	6,419	6,321	6,266
65歳以上	4,785	4,795	4,813	4,793	4,751
65～74歳	2,412	2,332	2,273	2,192	2,102
75歳以上	2,373	2,463	2,540	2,601	2,649
高齢化率	25.7%	26.0%	26.4%	26.6%	26.6%

	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
総人口	17,677	17,483	17,285	17,082	16,870
0 ~ 14 歳	2,239	2,243	2,256	2,272	2,280
15 ~ 39 歳	4,529	4,426	4,318	4,174	4,042
40 ~ 64 歳	6,211	6,067	5,887	5,744	5,551
65 歳以上	4,699	4,748	4,823	4,892	4,997
65 ~ 74 歳	2,032	2,051	2,122	2,226	2,325
75 歳以上	2,666	2,697	2,701	2,666	2,672
高齢化率	26.6%	27.2%	27.9%	28.6%	29.6%

(健康福祉課地域包括支援班)



2 高齢者の世帯状況

高齢者（65歳以上者）のいる世帯の推移は表2-1のとおりです。昭和60年時点では、高齢者のいる世帯数の全世帯数に占める割合は36.0%でしたが、平成12年には54.7%、平成17年には54.4%と高齢者のいる世帯が一般世帯を上回っています。

また、高齢者のひとりぐらし世帯も増えてきており、昭和60年には全世帯数に占める割合は1.9%だったのが、平成17年には7.0%になっています。さらに高齢者だけの世帯も増えており、平成17年には771世帯と全世帯に占める割合は24.7%になっています。今後ともこうした傾向が続くと予測されます。

表2-1 世帯状況の推移

単位：世帯

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
一般世帯	3,422	3,170	2,811	2,498	2,613
高齢者のいる世帯 (割合)	1,921 (36.0%)	2,213 (41.1%)	2,648 (48.5%)	3,011 (54.7%)	3,121 (54.4%)
計	5,343	5,383	5,459	5,509	5,734

平成12年までは国勢調査、平成17年は3月31日現在の涌谷町住民基本台帳数値

表2-2 ひとりぐらし老人

単位：人

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
ひとりぐらし老人 世帯(割合)	100 (1.9%)	162 (3.0%)	241 (4.4%)	337 (6.1%)	401 (7.0%)

平成12年までは国勢調査、平成17年は3月31日現在の涌谷町住民基本台帳数値

表2-3 在宅65歳以上高齢者のいる世帯

高齢者のみの世帯			高齢者のいる その他の世帯	計
ひとりぐらし	2人世帯	3人以上世帯		
401世帯	356世帯	14世帯	2,350世帯	3,121世帯
401人	712人	42人		

平成17年は4月1日現在の涌谷町福祉対象者調査数値

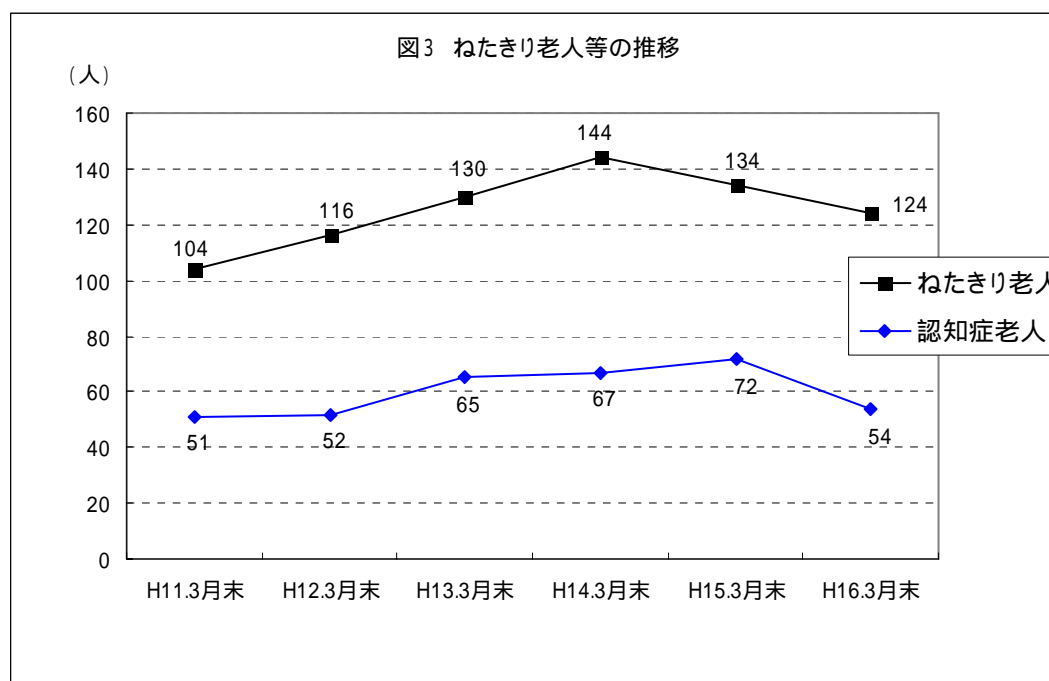
涌谷町のねたきり老人及び認知症老人の状況は表2 - 4のとおりです。ねたきり老人については平成14年度までは増加の傾向にありましたが、平成15年度以降は減少傾向にあります。しかし、今後の高齢化の進展にあわせて、ねたきり老人、認知症老人とも増加していく可能性が予測されます。特に認知症老人については介護負担が大きいことから、さらに力を入れなければならない分野であるといえます。

表2 - 4 ねたきり老人等の推移

単位：人

	11年3月末	12年3月末	13年3月末	14年3月末	15年3月末	16年3月末
ねたきり老人	104	116	130	144	134	124
認知症老人	51	52	65	67	72	54

認知症老人でねたきり老人の場合はねたきり老人にカウント 健康福祉課調べ



3 高齢者の生活状況

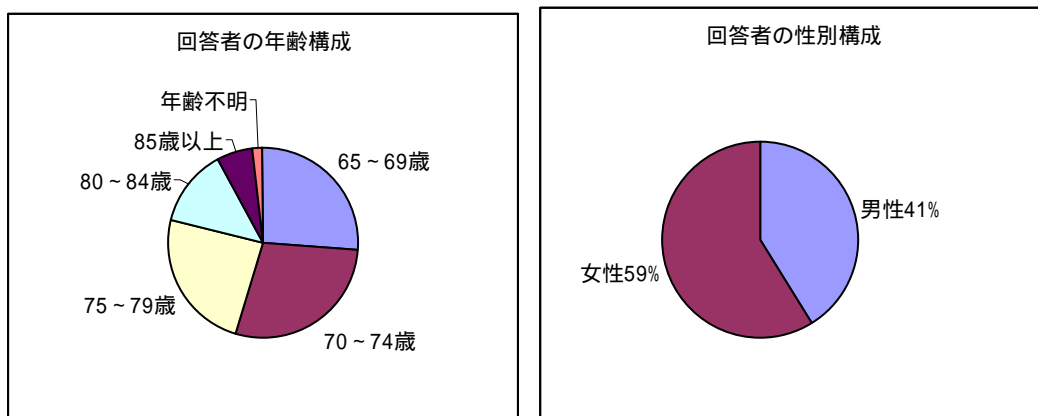
高齢者の生活状況を把握するため自立高齢者を対象にアンケートを実施しました。

対象者

調査の対象者は、要介護認定者と施設入所者を除く65歳以上の高齢者のうちのおおよそ3割とし、65歳から5歳刻みと85歳以上の5階層をさらに男女別とした10グループから、それぞれ3割を無作為に抽出し調査をおこないました。

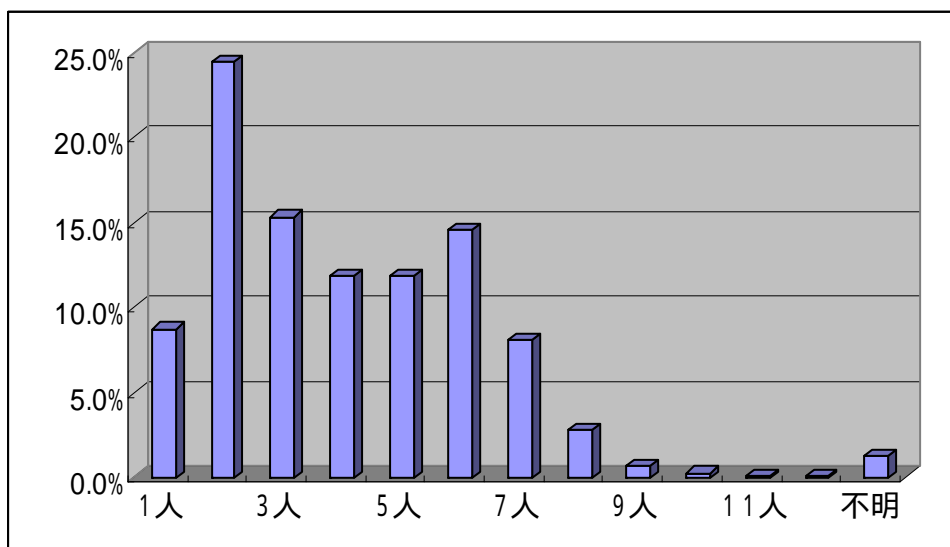
調査人数 1,259名 (高齢者人口の26.5%)
 回答者数 1,168名 (高齢者人口の24.6%)
 回答率 92.8%

回答者の年齢と性別



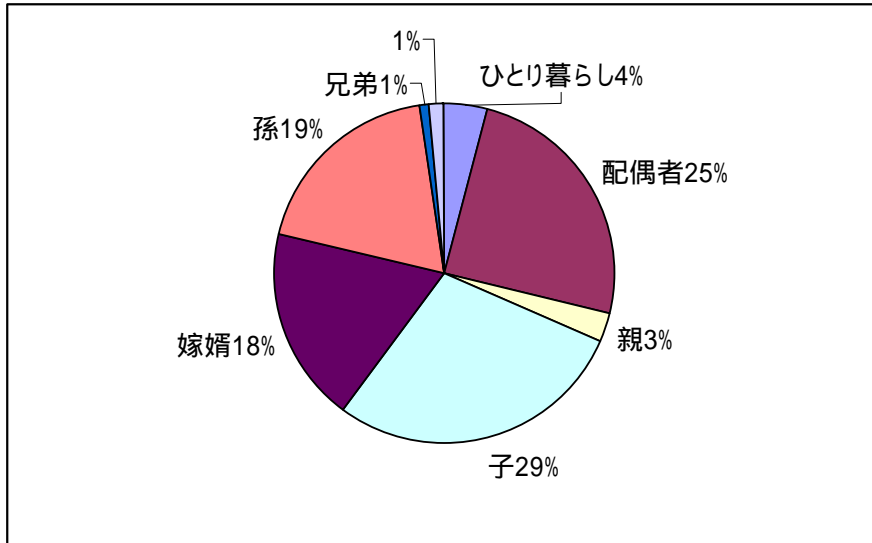
高齢者の家族構成 (家族の人数)

2人家族が一番多く25%近くを占めています。ひとり暮らしも8%と年々増加しています。

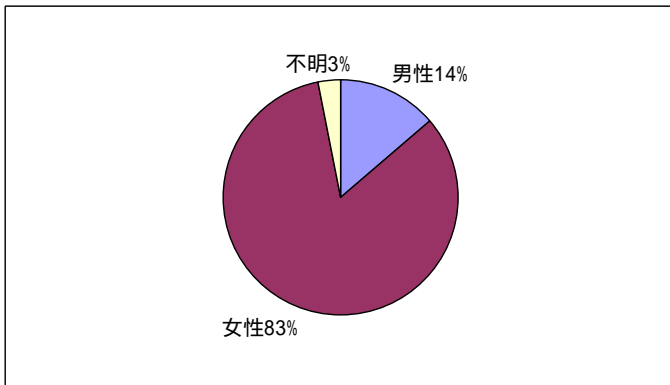


家族構成（同居家族）

同居相手の家族は、子や嫁婿との同居が半数を占め、次いで配偶者、孫となっています。

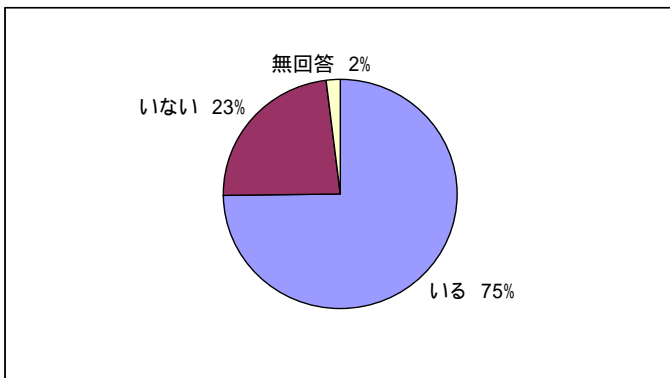


ひとり暮らしの性別



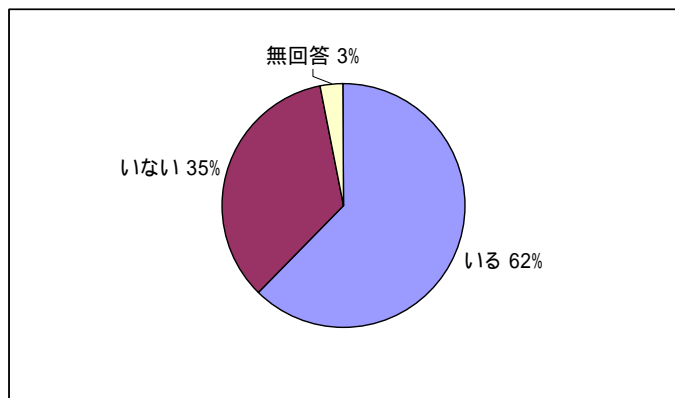
ひとり暮らし高齢者の性別は男性に比べ、圧倒的に女性（83%）が占めています。

日中に一緒にいる家族



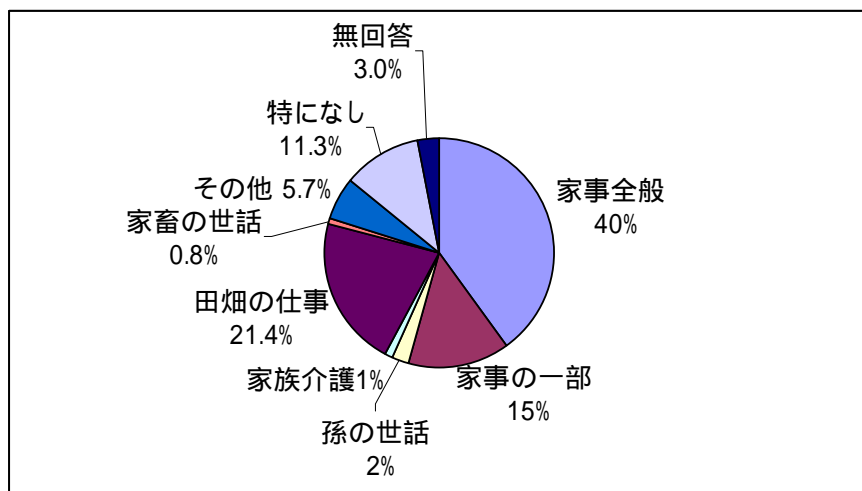
ひとり暮らしの方も含め、23%の高齢者が日中はひとりで生活しています。

64歳以下の同居家族



62%の方は高齢者以外の方と同居していますが、35%は高齢者だけの世帯です。

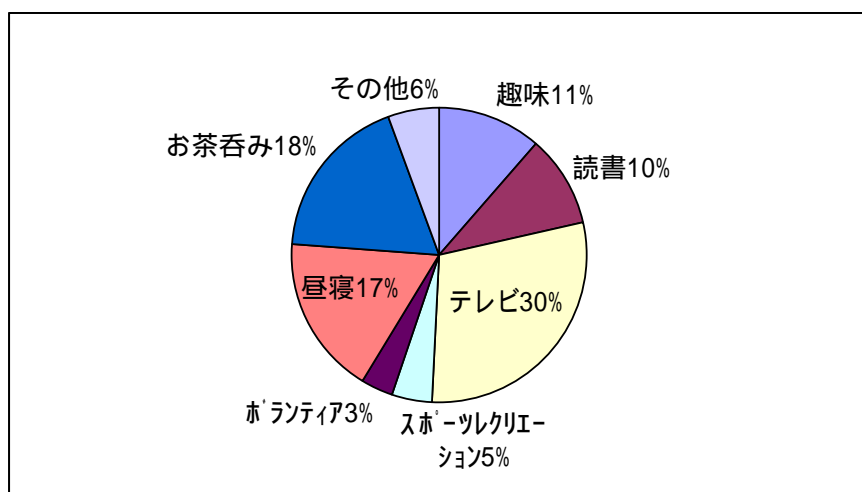
高齢者の家庭内での役割



家庭内では家事や田畑の仕事など役割のある方が多い状況です。

しかし11%の方が家庭内での役割がないと回答しています。

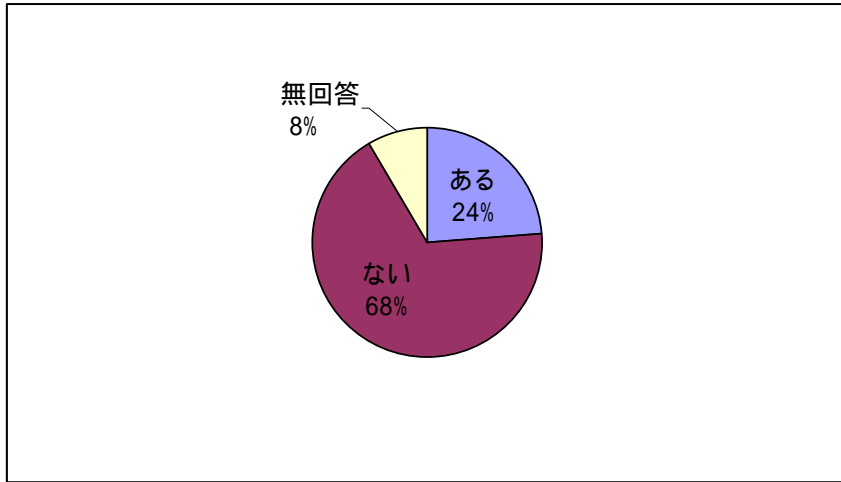
「役割がない」と答えた方の日中の過ごし方



半数(47%)の方はテレビや昼寝をして過ごしています。

スポーツ・レクリエーションやボランティア活動など活動的な方は8%と少数です。

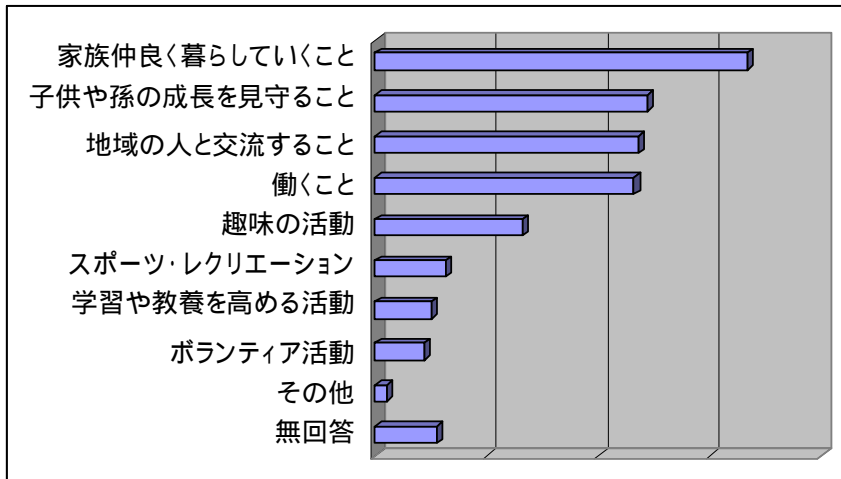
あなたは地域での役割はありますか。



地域での役割は24%の方があると答えています。

地域での役割とは、たとえば、自治会や組合などの役員をしているなどです。

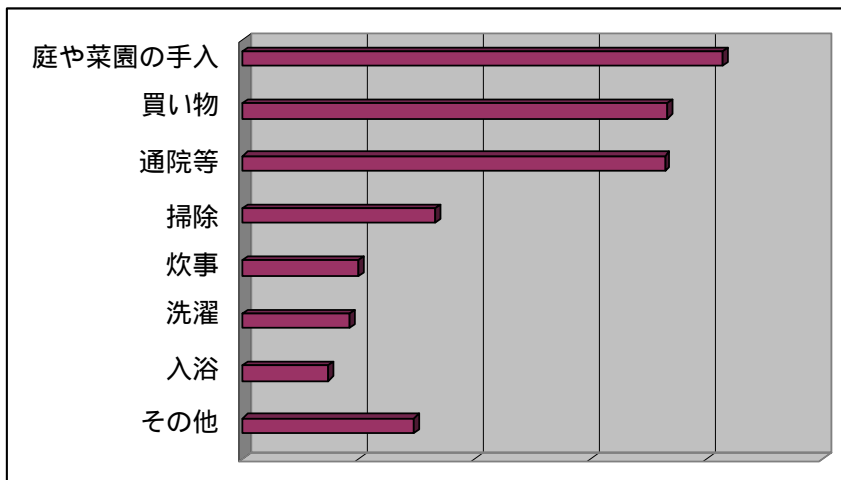
生きがいを感じること



子供達の成長を見守りながら、家族や地域の人と仲良く暮らすことに生きがいを感じています。

ひとり暮らしの方は、地域との交流と働くことに生きがいを感じています。

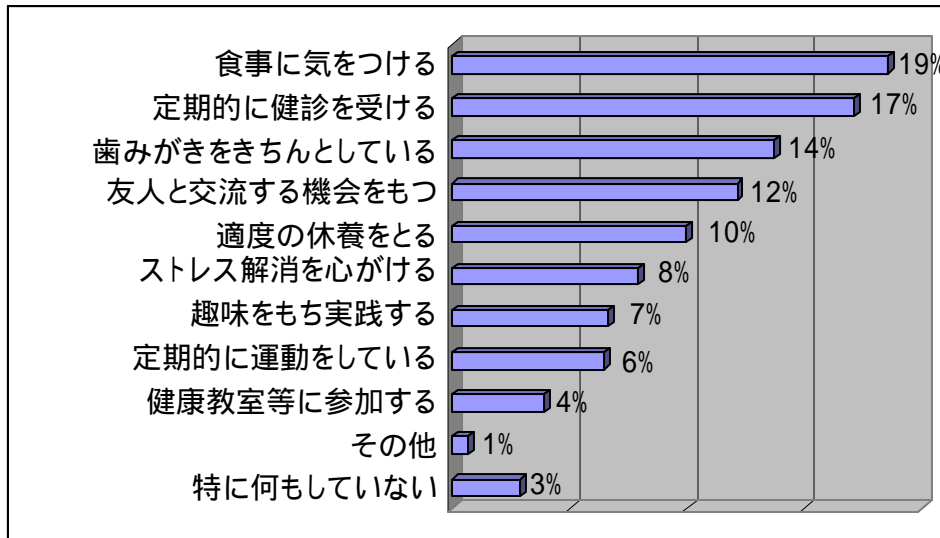
日常生活で不便を感じていること



庭や菜園の手入れが一番不便を感じています。

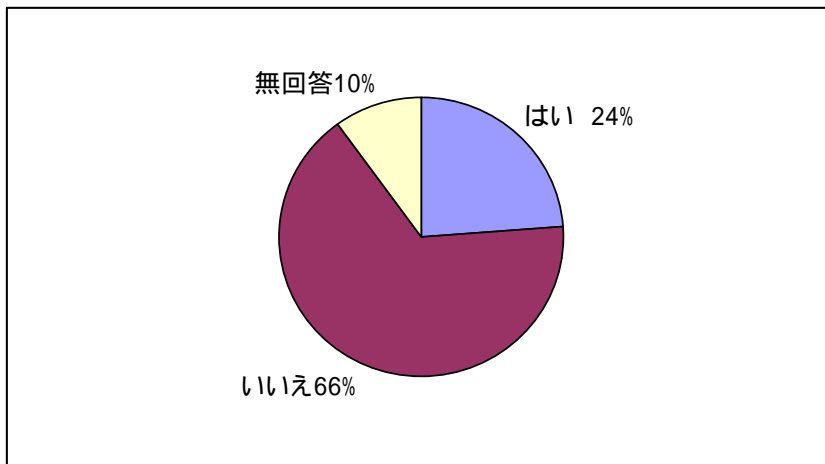
次いで買い物や通院などの外出となっています。

健康保持のためにしていること



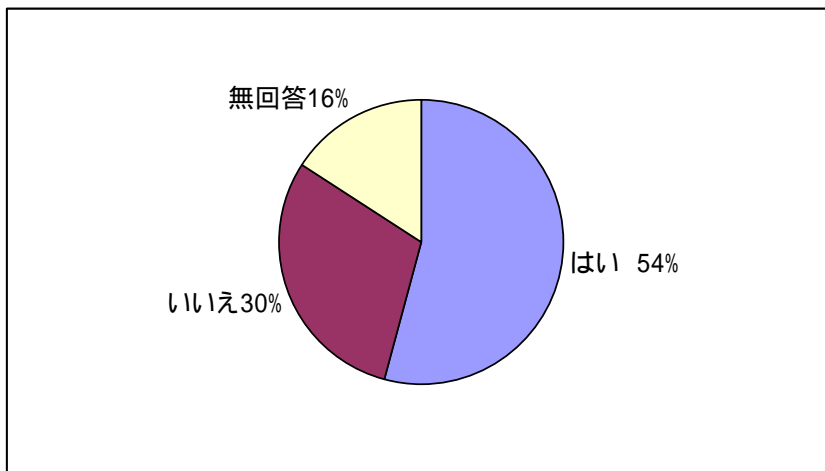
食事には気を付けていますが、運動はあまりしている方が少ないようです。

昨年と比べて友人や近所の人との交流が減っていませんか。



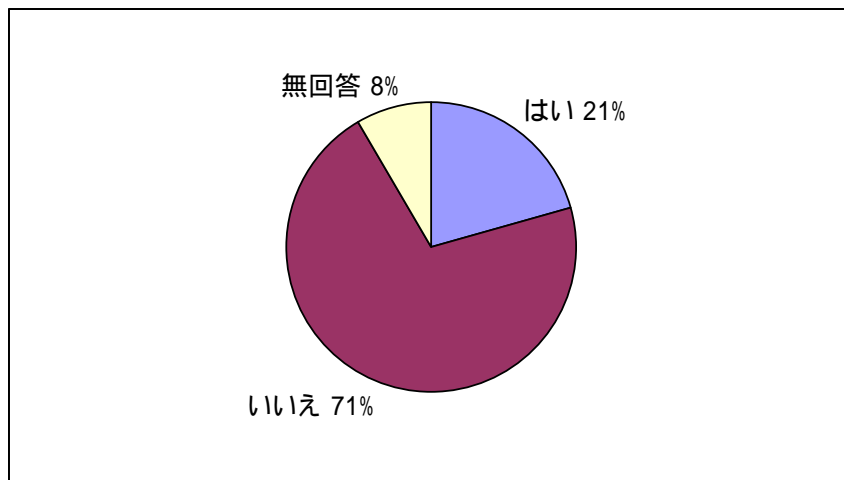
4人に1人の方は交流が減っていると答えています。

以前まで楽にできていたことも最近はおっくうに感じることはありませんか。



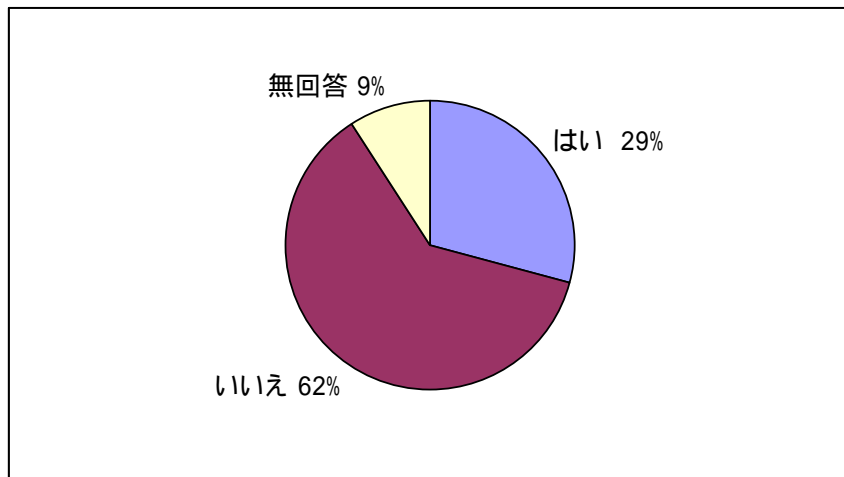
半分以上の方が億劫に感じるようになっています。

この1年間に転んだことがありますか。



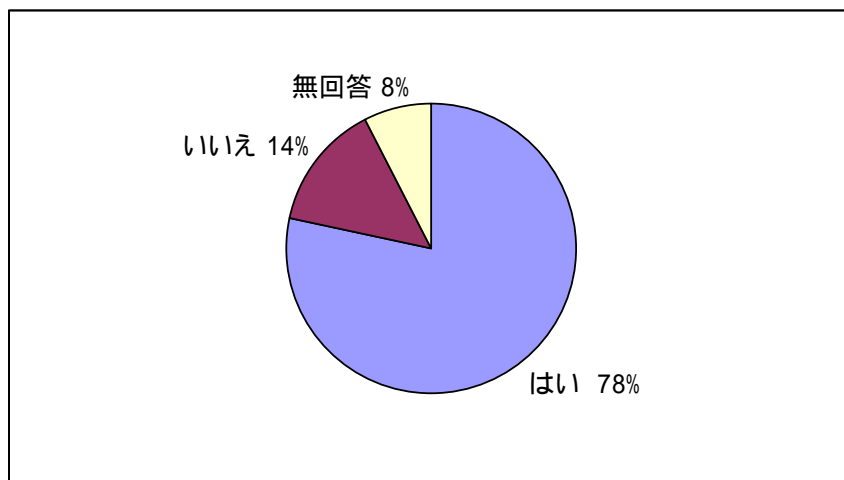
5人に1人が転倒したことがあると回答しています。

よくつまずいたり、転びそうになったりしますか。



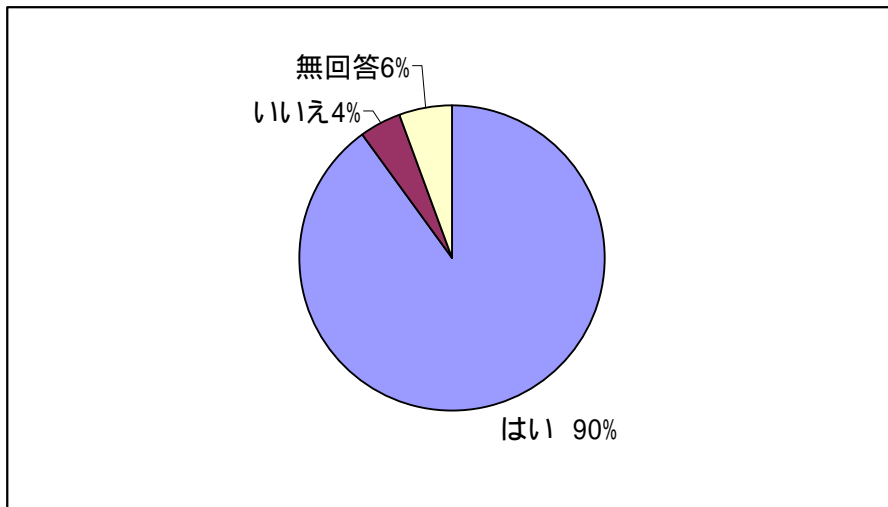
約3割の方が転びそうになったことがあります。

ひとりで杖を使わずに15分くらい続けて歩くことができますか。



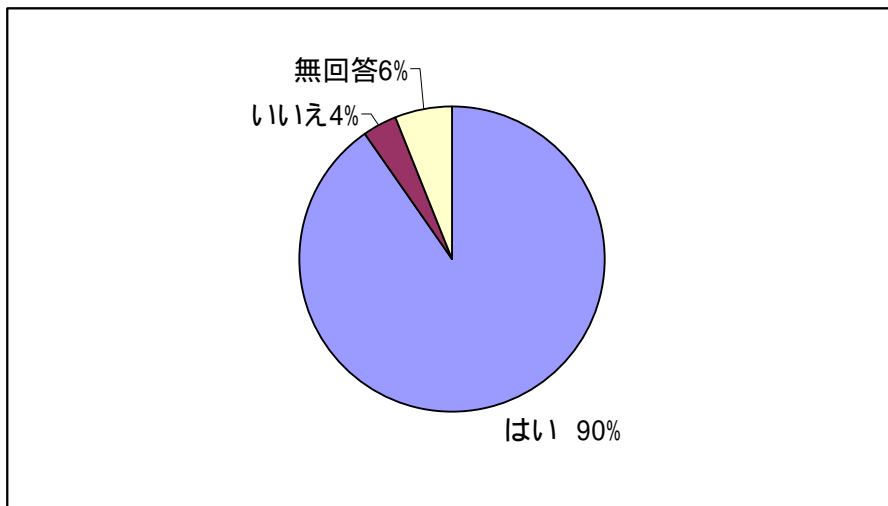
自立者でも14%の方が杖なしでは15分以上歩くことができない。

1日3食きちんと食べていますか。



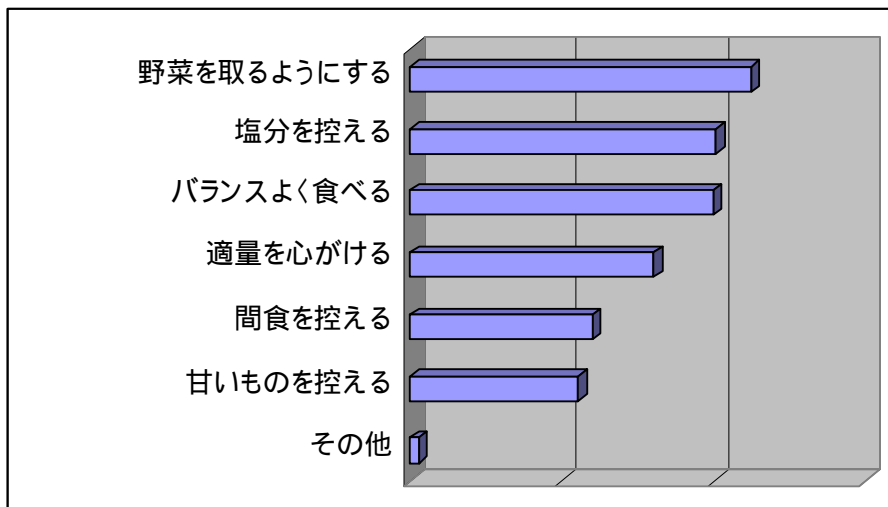
ほとんどの方が1日3食とっているようです。

おいしく食べることができますか。

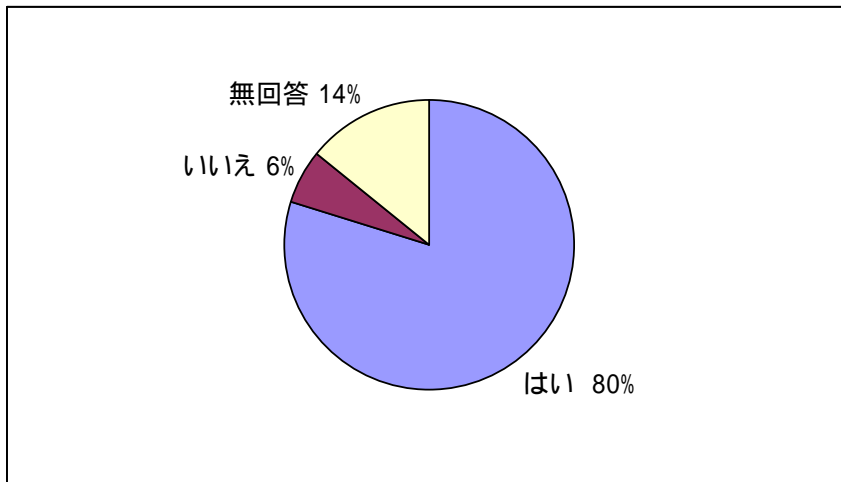


ほとんどの方がおいしく食べられると回答しています。

食事で特に気をつけていること。

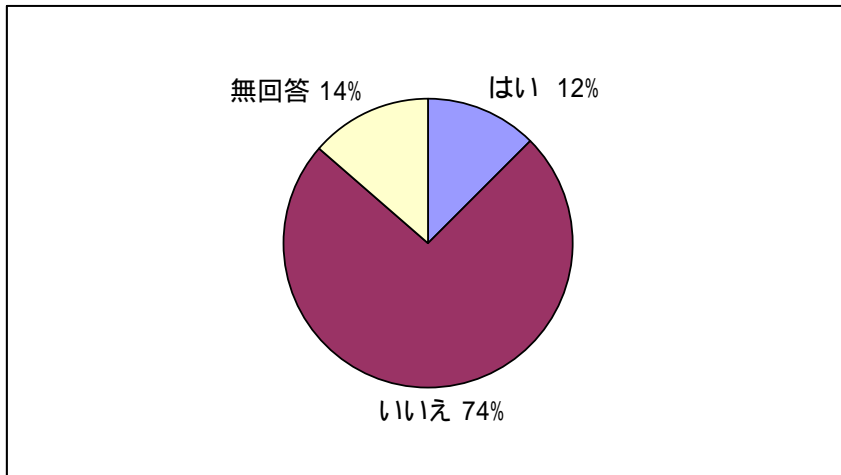


毎日、歯みがきや入れ歯の手入れはしていますか。



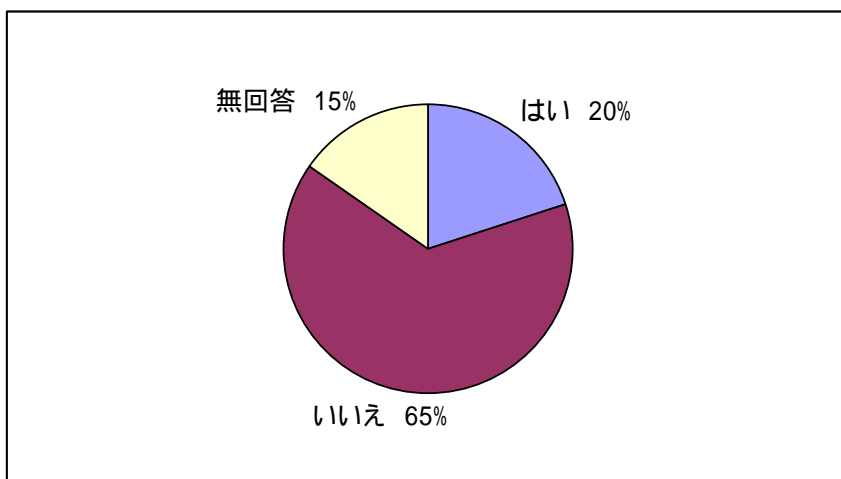
8割のかたは毎日歯の手入れをしています、していない方も6%ほどみられます。

最近、お茶や汁物などでむせることがありますか。



よく、むせることがあると答えた方が1割います。

「口の中が痛い」「入れ歯が合わない」などありますか。



5人に1人が口腔内の不調を訴えています。

4 高齢者の健康状態

(1) 健康診査等の受診状況

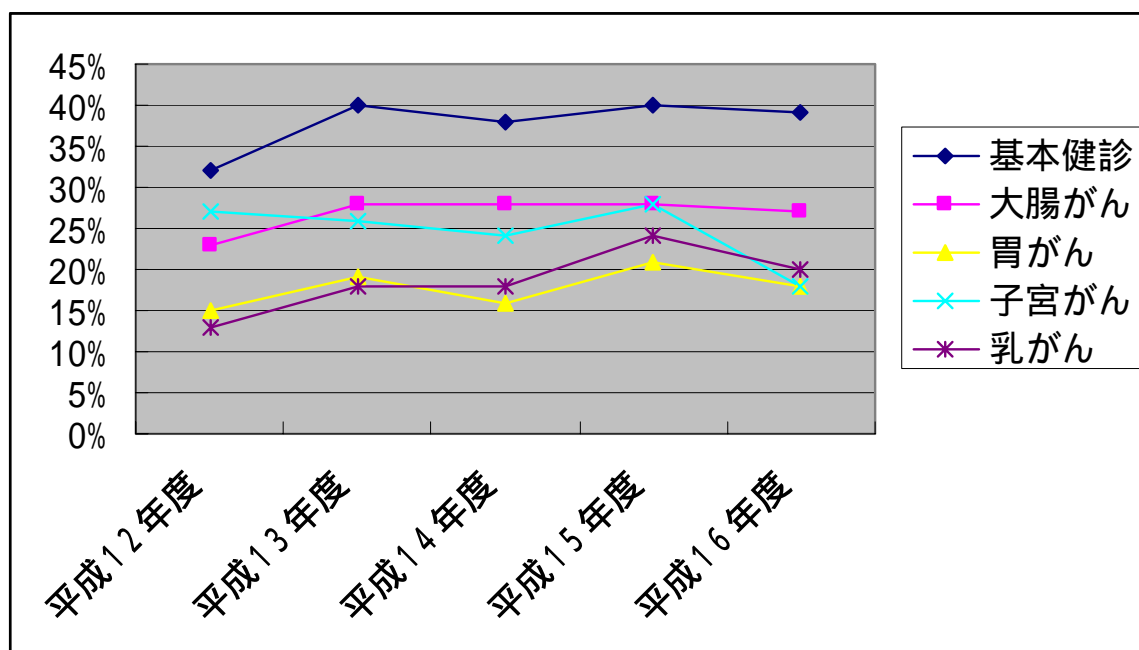
当町における健診等の受診状況は表のとおりです。基本健診と大腸がん・胃がん健診の受診率は横ばいですが、子宮がん健診の受診率が低下してきています。

平成16年度基本健康診査等の受診者数

	対象者数(A)	受診者数(B)	受診率(C)	精検該当者
基本健康診査	6,223人	2,410人	38.7%	
大腸がん	7,344人	1,980人	26.7%	166人
胃がん	6,840人	1,257人	18.4%	123人
子宮がん	5,974人	1,092人	18.3%	26人
乳がん	3,885人	773人	19.9%	58人

健診受診率の推移

	基本健診	大腸がん	胃がん	子宮がん	乳がん
平成12年度	32%	23%	15%	27%	13%
平成13年度	40%	28%	19%	26%	18%
平成14年度	38%	28%	16%	24%	18%
平成15年度	40%	28%	21%	28%	24%
平成16年度	39%	27%	18%	18%	20%



(2) 高齢者の疾病状況

当町における町民の疾病状況を、国民健康保険加入者の方の5月診療分データによってあらわしたのが次の表です。これらの表から町民の方の概ねの疾病状況を把握することができます。

65歳以上の罹患者数の多い疾病を個別の疾病名で見ると、医科では「高血圧性疾患」が圧倒的に多く、次いで「高脂血症」「胃炎及び十二指腸疾患」となっています。

65歳以上で急激に増加する疾病としては、「白内障」や「脳梗塞」及び「骨の密度及び構造の障害（骨粗鬆症など）」等があります。

歯科については、「その他の歯及び歯の支持組織の傷害」が最も多く、「う蝕」と「歯肉炎及び歯周疾患」がそれぞれ次いでいます。

医科受診

全疾病処理による罹患者数の多い疾病（平成17年5月診療分、上位20位）単位：人

順位	分類名	65歳以上	比率	64歳以下	全体
1	高血圧性疾患	1,991	78.4%	549	2,540
2	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1,364	76.3%	423	1,787
3	その他の消化器系の疾患	1,105	80.1%	275	1,380
4	高脂血症	962	74.1%	336	1,298
5	胃炎及び十二指腸疾患	781	75.8%	250	1,031
6	虚血性心疾患	757	88.8%	95	852
7	脊椎障害（脊椎症を含む）	716	88.3%	95	811
8	糖尿病	705	76.0%	223	928
9	その他の眼及び付属器の疾患	670	84.7%	121	791
10	その他の心疾患	619	87.6%	88	707
11	関節症	516	88.2%	69	585
12	白内障	500	94.3%	30	530
13	骨の密度及び構造の障害	483	89.4%	57	540
14	脳梗塞	454	90.1%	50	504
15	腰痛症及び座骨神経痛	452	79.0%	120	572
16	結膜炎	448	78.7%	121	569
17	皮膚炎及び湿疹	442	64.2%	246	688
18	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	349	72.1%	135	484
19	屈折及び調節の障害	319	71.7%	126	445
20	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	309	75.2%	102	411

歯科受診

歯科受診(罹患)者数(平成17年5月診療分)

単位：人

分類名	65歳以上	64歳以下	全体
う蝕	106	215	321
歯肉炎及び歯周疾患	131	170	301
その他の歯及び歯の支持組織の障害	243	200	443
計	480	585	1,065

(3) 死因統計

平成6年と平成16年の高齢者の死亡原因となった疾患等は次の表のとおりです。

死因のトップはいずれも悪性新生物(癌)で、次いで肺炎気管支炎、心疾患、脳血管疾患となっています。

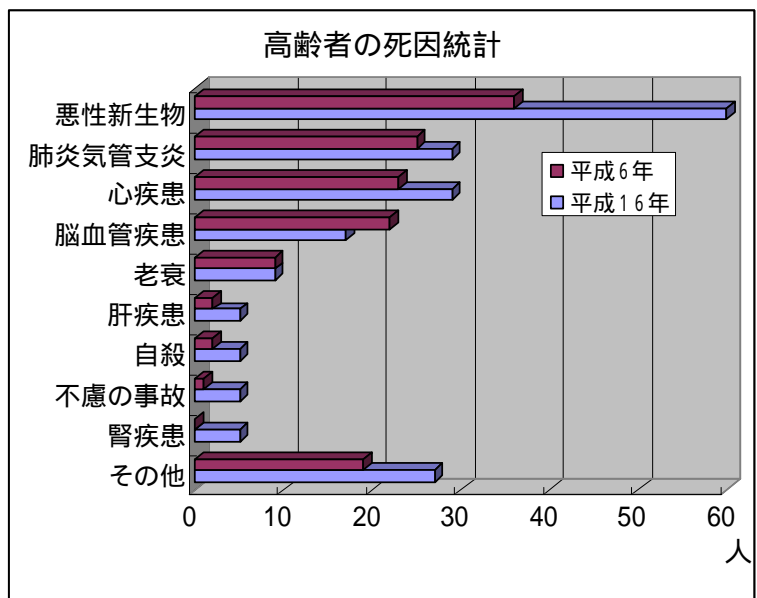
平成6年の統計と比較してみると、悪性新生物が36人から60人と大幅に増加しており、全体に占める割合も30%になっています。

逆に脳血管疾患はわずかながら減少し、割合は16%から9%になっています。その他の死亡原因の傾向としてはあまり変化はみられません。

また、全体に占める割合は多くありませんが、不慮の事故や腎炎・ネフローゼなど新たなその他の項目が増えてきています。

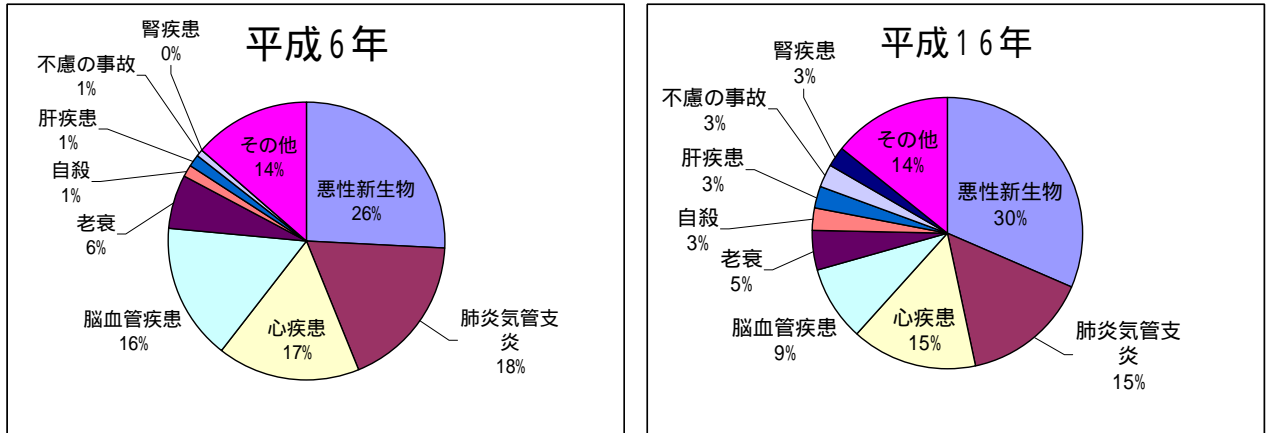
高齢者死因統計

	H6年	H16年
悪性新生物	36	60
肺炎気管支炎	25	29
心疾患	23	29
脳血管疾患	22	17
老衰	9	9
肝疾患	2	5
自殺	2	5
不慮の事故	1	5
腎疾患	0	5
その他	19	27
計	139	191



(健康福祉課調べ)

死因割合の比較



悪性新生物（癌）の内訳

特に大腸がんが大幅に増えています。肝臓がんも増加傾向にあります。また、あらたにと肝内胆管がんや乳がん、子宮がんなども増えています。

	H 6 年	H 16 年
肺がん	12	10
大腸がん	1	10
肝臓がん	4	8
胃がん	7	5
肝内胆管がん	0	5
乳がん	0	2
子宮がん	0	2
その他	12	18
計	36	60

